

# 「地域の足」を確保せよ Vol.5

特集

その5 学園都市線電化で

何が変わる

輪・和・話

知恵の 人の マチの



学園都市線（札沼線）の電化は私たちに何をもたらすのでしょうか。

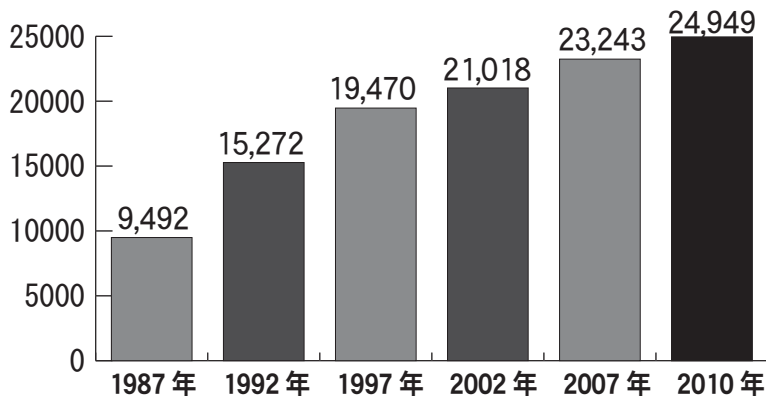
夕方の通勤・通学客

## 利用客の増加

札幌市の都市化は鉄道、地下鉄の駅をはじめ主要道路に沿って中心部から郊外へと伸びました。特に札幌ニュータウン（あいの里 1980年）や当別町太美地区のスターライト、JR団地など（1988年～）の宅地造成が始まり、これに比例して利用客も増加しました。学園都市線を利用する乗客も昨年は約2万5千人となり、この23年間では2.6倍にも増えています。

この都市化に伴い、利用者からもJRに対しサービスの改善が強く求められてきました。これに対し駅の増設・列車便数の増加が図られてきましたが、電化事業はこれまでの整備に加え、より大きなサービスの向上が期待できます。

単位：人/日 札幌～石狩当別間の利用状況（資料：JR北海道）



札沼線（学園都市線）電化までの取組み

昭和 57～61年	大学前、百合が原、あいの里教育大、新川、太平駅新設
63年 11月	八軒駅新設
平成 3年 3月	札沼線の愛称名を「学園都市線」と命名
5年 10月	八軒～あいの里教育大間の複線化事業着手
9年 3月	太平～あいの里教育大間地平複線化部分開業
12年 3月	桑園～新琴似間高架化と八軒～あいの里教育大間複線化完成
21年 10月	桑園～北海道医療大学間の電化工事着手

## 学園都市線電化 それぞれの視点から見たメリットは？

### JRは

お客様のニーズに応えるとともに  
環境負荷軽減や経営効率化も



学園都市線は札幌圏で唯一の非電化区間であり、運行している気動車も老朽化が著しく、当社としても重要な課題でした。

電化により札幌圏一体となった鉄道ネットワークを形成し、時分短縮、混雑緩和、冷房化率向上などのサービスのレベル

アップを図ることにより、さらに多くのお客様にご利用いただけるものと期待しています。

また、環境面では二酸化炭素排出量が現在の1/3に軽減されるほか、停車中の騒音も静かになります。さらに動力費（燃料など）や修繕費を大幅に軽減し経営の効率化も図ります。学園都市線電化により、お客様へのサービス向上はもとより、沿線や圏域の活性化に広く貢献できるものと考えております。

（JR北海道総合企画本部経営企画部主幹 野村幸博さん）

### 電車の運行は来年6月！

JR北海道は10月13日の報道発表で、学園都市線（札幌線）の電化事業の概要を発表。

その内容は、①来年6月から札幌～北海道医療大  
学間の列車100本のうち7割程度を電車化する。②  
10月からは全て電車化し、札幌～石狩当別間の所要  
時間が最大で7分短縮するなどダイヤ改正を実施。  
③新たに導入される車両は42両で全て冷房完備。  
というものです。（※車両は札幌圏全体で運用）



学園都市線を運行する電車の例（既存の721系電車 写真：JR北海道）

### 利用者は

利便性・快適性の改善

乗車中は、音楽を聴きながら読書をしたり友達とおしゃべりしたり、車窓を眺めたりと有益な時間ですが、時間短縮はうれしいです。

悪天候のほか、車両の故障で会社に遅刻ということもありましたが、新しい車両では、より安全・正確な運行になりますね。また、乗り降りに段差がなくなり、車椅子の方も楽になるのはいいことです。



今後、増便されることになれば、通勤、通学やレジャーなどのお出かけがもっと自由になり、「便利になった」と感じるでしょう。

これからは会社の同僚に「当別町は遠いね」と言わせないですね。

（町内在住 中村智美さん）

### 町は

通勤通学圏として人口増を期待

札幌圏域を生活圏とする当別町民にとって、通勤や通学、医療や福祉の関係、また文化・スポーツ活動の面で札幌市との時間距離が縮まり、さらに新千歳空港をはじめ、道内各地へのアクセスの向上が期待されるなど、町の魅力は増していきます。

例えば、千歳線から乗り換えなしで当別まで直通することになれば、そのPR効果は大きく、当別町への誘引策に効果が期待できます。豊かな自然、美しい農村景観を資源とした移住や観光事業などは、時間距離の短縮にともなって注目されるでしょう。

また、ふれあいバスとの連携を含めた地域公共交通の充実を図ることで若者からお年寄りまで「住みよい町づくり」の実現に向けた大きな弾みになります。

（当別町企画部 熊谷康弘企画課長）

